

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2022年8月1日 227号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

新しい養豚



ボランティアの富居さん(左)と植田さん。

現在百頭を超えるレダの豚すべてを太らせ始める。この試みはまだ始まったばかりです。

豚の肉がでるに違いありません。状態が肉質に反映する和な暮らし。豚の精神とすれば、きつと美味

「健康的に太った豚」を育てる試み
本紙223号で、レダの「アニマルウェルフェア」についてお伝えしました。記事で、レダの豚は自由に大地を駆け回り、「世界一幸せな豚」との評判がある一方、肉は筋肉質で固めだというものです。ところで「アニマルウェルフェア」の考え方がパラグアイと南米社会に浸透するまでは、レダの豚を商品化することは難しいのでしょうか？ 筆者はこの7月からレダを訪れていますが、レダで「太った豚」を育てているとの話を聞き、養豚担当の二人の青年ボランティアに案内を願い、養豚場を見学してきました。二人の青年は、富居さんと植田さん。車を後ろから押してやらないとエンジンが始動しない、廃車寸前のポンコツトラックで、レダの名所、「ブタランド」と「レティロ」に案内されました。ブタランドでは3日前に生まれたばかりという可愛らしい子豚を抱っこ。そしてレティロで、きょうの目的である「太った豚」を見せてもらいました。(上の写真)
豚舎としては、かなり広々とした区画の中で、ふつくとくとした去勢豚17頭が、ゆったりと歩いています。猛獣の侵入を防ぐ高い囲いで守られ、何一つ心配事のない生活をしているように見えました。これはまた別の意味で「幸せな豚」のようです。もはや死力を尽くして走ったり、泳いだりする必要もありません。要は適度な運動をさせることなのでしょう。すべての豚を体の引き締まったアスリートに育てなくとも「健康的に太った豚」であれば良いというわけです。恐怖に怯えることのない、平和な暮らし。豚の精神状態が肉質に反映する和な暮らし。豚の精神とすれば、きつと美味



チャパボラ4名と小田氏の到着。7月6日



記念すべき、レダ上陸の瞬間。7月6日



オリンポにて、第1期チャパボラ隊。7月6日



山崎氏とマリオ一家の歓迎ケーキ。7月13日



岩澤所長より講義を受ける。7月7日



第1期チャパボラ隊歓迎のケーキ。7月6日



島田さんが柑橘類の剪定と防腐処理。7月8日



土壌改良のため炭作りに励む大元氏。7月8日



第一農場のムクナ豆。緑色は未熟果。7月8日



レティロでトルティージャ作り。7月9日



養殖パクーの内臓処理作業。6月16日



マタコミツオビアルマジロ。7月3日



研修所テラスにて広報活動。7月11日



生まれたての赤ちゃん豚。6月13日



豚さんたち、ご飯だよ！ 7月8日



採れたてのバナナとパパイヤ。7月2日

持続可能な福地建設をめざして13

気候変動に具体的対策を

和田賢一



気候変動に
具体的対策を

国際連合(国連)の持続可能な開発目標(SDGs)のゴール13は「気候変動に対するさまざまな課題の克服をめざそう」というものです。ターゲットは3項目、実施手段は2項目と、他のゴールに比較すると短い文章です。

それは、この問題がSDGsとは別個に、世界的な問題として論議されてきて、解決をめざす焦点は明確であることが、知られているためだと思います。

ターゲット1から3は、「各国は、気候関連災害や自然災害に対する対応力を強化し、国別に政策、対策、計画を策定。気候変動に対する教育、啓蒙に努力しよう」というものです。また実施手段の2項目は、「気候変動により、甚大な災害を受ける開発途上国と島嶼国への支援を先進国は推し進めること」というものです。

そもそも気候変動とは何を指すのでしょうか。それは、気温と気象の長期的パターンの変化をいうのですが、1800年代以降、人間の活動が気候変動を引き起こすとされてきました。その変動が高止まりして、地球温暖化を招いているのです。その主な原因は温室効果ガスの大量発生、とりわけ化石燃料の燃焼であると言われています。

気候変動を引き起こす要因として、発電、製造、森林伐採の三点が挙げられます。発電と製造の分野は、化石燃料からつくられるものが圧倒的 대부분です。発電と製造は切り離すことができないほどです。森林伐採は、二酸化炭素を吸収する能力を低下させ、結果的に温暖化現象の一因となっているのです。

気候変動の影響は、①気温の上昇 ②嵐の被害の増大 ③干ばつの増加 ④海の温暖化と海面上昇 ⑤生物種の危機 ⑥食糧不足 ⑦健康リスクの増大 ⑧貧困と強制移住などあらゆる分野に及んでいます。(国際連合広報センターのレポート)

わが国で温暖化の影響と考えられるのは、毎年日本にやってくる台風の影響の巨大化です。スーパー台風と呼ばれることがあります。言うまでもありませんが、これまで1959年の伊勢湾台風のような死者5千人以上を出した台風も経験しています。昨今、問題となっているのは、地球温暖化との関連で、台風が巨大になつていく傾向があると指摘されていることです。

森林火災といえば、2019年9月から翌年の2月まで続いたオーストラリアの大規模火災が思い起こされます。6500棟の建物が焼失。18万6千方キロメートル



2011年6月、レダの建物を受けた被害の浸水に1階

の面積が焼けました。これは、ポルトガルの国土面積のほぼ2倍ですから、大変な被害です。また、コアラをはじめ多くの動物が失われたことも記憶に新しいです。

南米パラグアイのレダで開拓を進めている私たちもこれと無縁ではありません。11年前にパラグアイ川の水位が大きく上昇して、基地の建物の一階部分まで浸水したことがあります。その後、レダでは基地周辺の堤防を嵩上げしました。

また、アマゾン熱帯雨林で2019年に大きな火災がありました。翌2020年と2021年にも大規模な森林伐採と火災とで、約1万3千平方キロメートルの森林面積が失われてしまいました。レダ周辺までは類焼しませんでした。滞在メンバーは警戒を怠りませんでした。

太平洋の島々の周辺海面が上昇している点も見落

としてはならない問題です。

外務省の「わかる！ 国際情勢」の中で、南太平洋の島国ツバルについて、海岸浸食や浸水が激しく、強大なサイクロンなどによって、高潮や津波に被害が起こっていると指摘されています。国際機関「太平洋諸島センター」によると、ツバルは他の太平洋の島国の中で、海面上昇が一番著しいと指摘。ここ数十年にわたって3・9ミリ上昇しており、これは世界平均の倍の数値であると言っています。

2021年、英国で開かれた第26回気候変動枠組条約締結国会議(COP26)で、ツバルのカウセア・ナタノ首相は、「首都フナフチのある中央地区の40%は海面最高水位の下にある」と述べています。

海面上昇の原因はさまざま考えられますが、地球温暖化は間違いなくその主要な原因の一つです。地球温暖化によって、陸上の氷河や氷床に貯蓄されていた氷が溶け出て海に流れ込み、海水量が増えて海面が上昇するのです。また、水温が高くなつて海水の体積が膨張。摂氏20度の海水が摂氏1度上昇すると、体積が0・025%膨張するとされており、これによって海面が上昇するというわけです。

今年7月初め、イタリア側のアルプスの氷河が崩壊して流出し、死傷者を出しました。ここで氷河の崩壊に関連して、北極圏の海水の現状も指摘しておきたいと思います。全国地球温暖化防止活動推進センターによると、北極圏の平均気温は世界の他の地域に比較して2倍もの速さで毎年上昇しているといえます。現在、北極海の海水は溶けて縮小、この30年間で100万立法キロメートルに相当する海水が融けたと報告されています。

では、気候変動を抑えるのは何をすればいいのか。COP26では、①化石燃料は地中に残す ②メタン排出を減らす ③再生可能なエネルギーに切り替え、④植樹をするなどの7つの目標を挙げています。

さらに私は何をすれば良いのでしょうか？ 国連広報センターは、①節電 ②徒歩・自転車・公共交通機関の利用 ③廃棄食品を減らす ④リサイクル ⑤環境に配慮した製品を選ぶ、など10の行動を推奨しています。さあ、私は何をしようか。(つづく)

父が歩んだレダの地を訪ねて 伊達徳国

レダにきた第一の目的は、父が16年間を過ごしたこの地を、母と共にこの目で見ることでした。父の遺品を整理し、レダの人々に父の話を聞き、私たち自身も心の整理を付けながら、父を想いつつ過ごそうと考えました。



私にとって父はずっと遠い存在でした。幼いころより離れて暮らすことが多く、一緒にいてもあまり会話もありませんでした。私は、父が遠くの地で何のために何をしているのかも詳しくは知らず、また知ろうともしないまま過ごしていました。父は、ただただ遠い存在でした。

このパラグアイの国に来てから、私は父に一本釣りされてこの地に放り込まれたような気がしていました。日本でぐずぐずしている私を、父が自らを犠牲にしてこの地に引っ張り上げたような、そんな気持ちです。状況を考えれば随分と手前勝手な想像だなどとも思うのですが、そう思うことで前に進む力が湧いてくるような、一面もありました。

私がレダにおける約一ヶ月間の滞在期間中、最も時間を費やしたのは何かと言えば、庭木の剪定でした。今回、本当に多くの方に助けられてこの地まで来て、私自身何かお返しできないかと少し急いだ気持ちで考えていました。またレダという開拓の土地において、何かしらの役目を持ちたいという思いもありました。レダ到着後、最初の数日を過ごす中で、幾つかの符号を感じた事もあり、滞在期間中に公館と研修所の庭木の手入れをしようと思ひ立ちました。



庭木の剪定をする徳国さん。

メインの目的である父に関する様々な作業や行事と、そしてまたレダの地を知るための見学の時間などを考慮して、余裕のある日程で始めたはずの剪定作業は、結果として滞期間ギリギリまで続くことになりました。想像以上に込み入った枝を整理するために、何回にも分けて作業を繰り返しました。しかし結果として、

そうして長く同種の作業を続けるその合間の時間にこそ、私は父について深く思いを馳せることができたと感じます。一日の作業を終え、研修所に戻るため歩く数百メートルの道のりが、レダにおいて私が父を思う一番の時でした。この道がもっと長く続けばよいのに、そんなことを考えていました。

従業員のチャマココの人々とも交流を持つことが出来ました。父と長く共に作業した人たちは、彼らの方から私に話しかけてきて、父への思いを伝えてくれました。追慕礼拝の時には、食堂で働く女性がブルーゲンベリアの花を贈ってくれました。彼らが自らしてくれたそれらの行為の中に、私は父の人の柄を感じました。



父、勝見氏の追慕礼拝にて。6月14日

滞り期間も終盤のころに、レダ近隣の土地を訪れる機会を2回ほどいただけるようになりました。レダの人々が建てた学校や植えた木々が、彼らの社会の中で確かに生きていくのを見ることができました。またかつてレダで働いていた人達も含め、様々な形でレダの活動に会ったという人々に出会いました。そうしたレダの外におけるレダの軌跡と、それを受け継いでいく現地の人々の姿を見たと、私は確かな意義と可能性を感じました。

今でも父のことは、わからない事ばかりです。それでも今回この地に来て、様々なものを見せていただいた中で、言葉で語りはしなかった父が、多くのものを残したこと知りました。そしてまた、この先をさらに知るためには、まず私自身が成長しなければならぬとも感じました。

一ヶ月間というこの期間は、驚くほど短いものでした。まだ私はレダという地について、その歴史も含め何も知らないのと同じなのではないでしょうか。それでも、本当に密度の濃い価値ある時を過ごせました。

私は今、与えられた多くのものに対してお返しをしたい気持ちでいっぱいです。それは義務感や責任感といったものとはまた別の、心の底から自然と湧き上がってくる自身の望みです。人生における大きな指針に成長しうる木の種を植えていただき、大切に育てていくつもりです。(6月25日記す)

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: <https://asd-nsa.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

レダ・プロジェクト紹介 用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>